

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」					
ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」					
①身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ②伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 ③食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。					
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容	①保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労形態が多様化され、延長保育、休日、病児保育など利用する子どもは、長時間保育、生活する場所が変わることもあり、情緒の安定が難しい。 ・保育士の愛情が当たり前にあるものなのか保育士の資質が均等なのか。 ①・核家族化が進み、母親との愛着形成が十分でないままに、保育園に来ている子どもも見かける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染を防ぐため、向かい合わせに抱かない、至近距離で言葉掛けしないよう気を配る。 ・体調が悪くなった子どもは別室で保護者が来るまで保育を行っているので、クラス保育をする保育士が欠けてしまう。 ①・コロナだろうとなんだろうと、乳児保育は変わらないと思う。 ・マスクを着けたままで、笑顔や言葉を傾けるが、十分に伝わっていない気がする。 ・1対1の対応が必要な際、園児6人であれば職員2人体制で、個人対応と集団対応に分かれることができるが、1人体制では自律授乳が難しいのではないかな。 	乳児保育／ア <ul style="list-style-type: none"> ・マスクなしでの生活の保障。 ・食育に関する項目と家族支援の推進。 ・乳児に関する家庭での離乳、清潔などの知識を家庭に助言・指導する専門知識・技能を修了したスタッフの配置への補助。 ・個別の生活リズムに十分に対応できる、食べる、遊ぶ、寝る空間の確保と人員配置への補助。 ・一人一人の発達に応じた運動機能を促す遊びの保障のための十分な空間と人員の確保。 ・保護者が相談しやすい方法やシステムを構築。そのための、人員の確保と研修体制の構築。 ・睡眠チェックを5分おきにしているが、見守りの専任職員がいれば、職員がノンコンタクトタイムをとることができ、働き方改革につながる。 ・きつずノートで離乳食や幼児食の写真を毎日配信している。おたよりに食べている姿や食べさせ方などを写真付きで説明している栄養士のアドバイスを伝えたり形や量が参考になる資料を保護者に渡す。睡眠の重要性就寝時間の大切さを知らせる。 ・子どもの愛着関係づくりにとって、育児担当制保育は重要。乳児の入所状況によって違いはあるが、途中入所を受け入れ増員になっても、雇用できる保育士がいない。年度当初から増員を見込めるとありがたい。 ・全ての項目において当園に限れば、職員定数が基準より多く配置されているため、達成できていると考える。しかし、他の園の話を聴くと、保育士不足による時間外保育に対応するため、非常勤や無資格者の雇用になっている。保育の質をあげるのであれば、定数の見直し、主任を加算ではなく、必置にすべきである。 ・保育士が専門職であるということを、きちんと周知しなくてはならないと考える。 	配置基準の改定 (あらゆる課題に対して人員配置が共通) 人員配置 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針の内容は、10年に1度であるものの、社会の変化の状況も踏まえながら改訂が行われる。人員配置基準の見直しは行われていないために、基準が社会の変化に追いついていない状況がある。(現場の実態との乖離) ・近年は、子どもの発達状況の個人差も大きいことから個別に対応する必要性が増しており、現状では保育者の努力により保育の質が確保されている状況である。保育所保育指針のねらいを十分に達成する活動を展開するには、人員配置を見直す必要がある。(どのような子どもの人数であっても、最低2人の職員配置が必要) ・子どもの育ちの観点からも、クラス編成の適正な人数を検討する必要がある。 ・乳児院では0・1歳児の配置基準が1.6:1、2歳児が2:1となっており、この数値との比較も必要。 ・現状の人員配置基準では、実態(11時間開所、土曜開所、休憩・有休の調整)への対応に余裕がなく、保育者の働き方改革にとっても基準の見直しが必要。 【現状の配置基準による乳児保育の状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者1人が子どもをおんぶしながら、他の子どもにもミルクを飲ませ、寝ている子どもの様子も見るといったような状況がある ・クラスの中でも低月齢の子どもはおんぶや寝かせている時間が他の子どもと比べて長くなることがある
	②一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の生活スタイルの変化により、ほふくの保障が難しいのでは? 這う経験が不足している子どもが多い。 ・待機児童対策で条件緩和のもとに作られた小規模園では、ほふく室がなく、十分な確保とは言えない。 ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全に生活できるよう、保育室の衛生にかかると環境整備の徹底に努めた。 ・密を避け、人数や時間をずらして空間を確保。そのため、人員も要する。 ・園内に入れず部屋の様子が見てもらえない。 ② ・懇談会が開催できず、育児を伝えたり、情報共有できない。 ・援助や励ます、ほめるなどの行為の際には、ソーシャルディスタンスを取るなどは不可能。 ・運動機能の発達に差があるため、1人体制であると、安全のために幼い子は背中におんぶしたり、ベッドやラックに寝かせたりという時間が多くなる。 		

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

- ①身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。
- ②伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。
- ③食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容 ③個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。	③ ・若年の保護者や意識の違いが大きいため、離乳の進み方に個人差が大きい。 ・理由ではないですが、とある園で 保護者が嫌がるために、男性保育士の場合、以上児クラスの担任にしかできないということもある。 ・本園から持ってきてもらう給食のため、調理担当者リアルタイムに連携が取りにくい。 ・核家族化に伴い、離乳食の進め方を知らない。 ・スマホやママ友に頼る間違った知識。	③ ・マスク着用による、モデルの示しにくさを感じた。 ・保育者のマスク使用により、口元が見えず模倣しにくいため、必要に応じてマウスシールドを使用して口の動かし方などを伝えられるようにした。 ・園内に入れず実際の量と大きさや形わからない。試食や保育参観が無いため食べさせ方食べ方を伝えられない。 ・授乳時は語りかけを自粛し、優しい目を向け対応する。 ・0歳児1：3 1～2歳児1：6を考えると個人差に対応できるのか、近年特に個人差を感じる ・隣の子もとの間隔を広げた。そのため、援助がやりにくく、待たせる時間が長くなる。	乳児保育／ア ・人員配置を検討。 ・小規模園の在り方を、行政を交えて話し合ったり、情報交換をしたり、横のつながりを作ってはどうか。 ・マスクの着用の必須について、医学的な根拠を踏まえた見直しを図る。 ・消毒の必須について、医学的な根拠を踏まえた見直しを図る。また、消毒を実施にあたっての予算を増やす。(専門業者を入れる、合理化・省力化につながる機会の導入など) ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。 ・0歳児クラス職員必要数が1人の場合、1歳児と複式にして、2人以上の配置とする。	iii 空間の確保 ・個別の発達に応じた運動機能を促す遊びを保障するための空間の確保が必要。(年齢により必要な面積や部屋の形等の検討の必要性) ・保育室の面積基準は子ども1人あたりの計算となっているが、同じ空間に保育者も存在していることから、このことを加味した設定が必要。 【乳児期における空間の確保の必要性】 ・ライフスタイルの変化により、家庭で“はう”経験を十分に得られないことがある。 ・歩行が自立し、活発な子どもの場合は1つ上のクラスで活動する時間を設けることが必要な場合がある。
			v 保育の質の向上 ・子どもの発達状況の個人差の背景には家庭の状況（核家族化、保護者の子育てに対する意識の変化）がある。特に乳児期においては、以下の個人差が見られることから、子どもの発達に対する理解を深め、保育の質を高める取り組みが必要。 【乳児期に見られる発達の差】 ・“はう”経験の差による体幹の発達 ・離乳の進み方の差 ・生活リズムの変化による睡眠の差	

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」				
①身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ②伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 ③食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容 ⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつの性能がよくなり、家庭内で子どものおむつを長時間変えずにいる家庭があるため、清潔になる心地よさを味わいにくくなっている。 ・コロナ禍で家にいる事が多くなるためオムツ交換の頻度が減っているのか休日明けにお尻かぶれになっている子どもが多い。 ・保護者のニーズや育児と仕事との両立支援の上で、紙おむつを採用。タイミングが計りにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも増して徹底した衛生管理を心掛けた。 ・沐浴からシャワーに切り替えて、感染防止のため水をためないようにした。 ・使用済みのおむつの持ち帰りを廃止。園での保管やゴミ出し対応の工夫を要する。 ⑤ ・送迎時に様子を伝え保育園ではこまめに替えるようにしている。 ・保育士のわいせつ行為の範囲をどう考えるか、でおむつ交換も必要最小限になる可能性もある？ ・マスクを着けたままで、笑顔や言葉を傾けるが、十分に伝わっていない気がする。 ・0歳児高月齢になると、アレルギー児に不可の食材を別児が家庭で食し、顔や手、服にアレルギーが付着して登園する場合がある。朝夕の合同保育では、大きなクラスとも接触する場合があるので、場面に応じて完全個別対応が必要である。 	乳児保育／ア	<p>保育者の専門性の向上の機会の確保</p> <p>vi</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に応じた保育内容の見直しや保護者支援等において、保育者が専門性の向上を図ることのできる機会（研修等）を十分に確保できる体制や支援が必要。 ・特に小規模保育所については、他園との横のつながりが薄い傾向があり、専門性について客観的に精査できる機会が必要である。 <p>保育者の専門性の確保</p> <p>vii</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者は、乳児の排泄に関する専門的知識を身につけ、排泄の自立の芽生えを意識しながら、保育を実施することが必要である。複数の保育者で乳児の保育にあたることから、その専門的知識と目の前の子どもの育ちを常に連携の下、共有することが大切。また、家庭との連携も必須であり、保護者の状況や思いに寄り添いつつも、専門的な見地から適切な助言指導を行うことも重要な責務である。そのための専門性の確保が求められる。 <p>“清潔”に関する正しい知識を持つこと、そのためのガイドラインの作成</p> <p>viii</p> <p>コロナウイルス感染症の感染状況と対策がかなり速いスピードで変化している状況の中、現場でも見直しをする余裕がなく、気が付くとそれぞれの園が自己判断で感染対策を行っている。国からの通知は現状に合わせたものを、現場に即した分かりやすい示し方で行っていただきたい。現場レベルでも、消毒などの感染対策では必須の事柄・努力義務などの整理を行いながら、子どもたちの安全安心な環境を保持しつつも、無駄を省く視点も必要と考える。</p>

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」					
ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」					
①身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ②伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 ③食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。					
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容の取扱い	①心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。	・家庭で這い這いをせずにつかまり立つ子どもが増えている。その為か転倒して怪我につながるが多い。 ① ・1,2歳児に向けた活動やルールが0歳児には難しいことが多く、中止させられたり、規制されたりする場合が多々ある。	・コロナ禍でスキンシップをしていると15分抱いていたらその子がコロナ陽性であった場合濃厚接触者になってしまう。スキンシップを失くすことは出来ないのも難しさを感じる。 ① ・コロナ禍だから…、という変更や課題はない。	乳児保育／ア	
	②健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期へと徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。	・ベビーフードの普及もあり、家庭での離乳が進んでいなかったり、進め方が分からなかったりしていることが多く、園でも食べられる食材が増えていきづらい。 ・アレルギー対応も多様化し、外国籍児童の宗教食の対応も増えている。 ② ・自園調理の給食があつてこそ、調理の音、作る様子、におい、など五感を通して食習慣が形成されると考える。搬入給食では育たない ・輸送するため、運搬や配膳に工夫している。が、皿ではなく、タッパであったり、時間が遅いため、急いで食べさせないと眠くなってしまふ、などの問題点が見られる。そのよう状態の子どもを3人に一人の保育士では無理がある。	・密になったり 飛沫を防いだりするために、食事環境を見直した。 ② ・コロナ禍だから…、という変更や課題はない。		

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

- ①安心できる関係の下で、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。
- ②体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。
- ③身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容 ①子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育により、家庭で過ごす時間が短いため、保護者が子どもと触れ合う時間が短くなっており、泣いたりわがままをいったりして思いを伝えようとする子どもが多い。 ・当園は自然豊かな地域であるが、中にはビルの1室で保育が行われている現状もある。設置要綱の緩和による弊害があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用によって表情が分かりにくく、子どもの欲求が満たされているのか、また保育士等とのやりとりが楽しめているか。 ・濃厚接触者になる可能性を考えると、長時間の抱っこや接触を躊躇してしまう。 	<p>乳児保育／イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視線や喃語に丁寧に応えることのできる環境が必要。乳児保育においては子ども：保育士という人員配置ではなく、一部屋で保育する人数を制限する必要もありか。 ・マスクなしでの生活の保障。 	<p>人員配置の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> i <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の育ちの保障には、応答的関わりが必要。それと同時に、勤務時間内に保育の振り返りや立案等の書類作成や、保育準備等の時間を確保するため、働き方改革の観点からも人員配置の見直しが必要。 ・保育者が子どもの様子に余裕をもって向き合い、穏やかに、細やかに保育を実施していくための必要最低人数の見直しを図る。必要最低人数の考え方については、調乳のため調乳室に入っている場合、排便処理のためトイレに入っている場合などやむを得ず保育室を離れる場合があること、体調を整えるための水分補給や休息を取ること、記録や連絡ノートの記入など事務的な活動を行うこと、などを鑑みた判断を頂きたい。 ・乳児は月齢で配置基準を考える等の検討も必要（例/12か月未満は2：1）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 養成校を卒業する学生の学びの質、保育の質が保たれているか ・定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5～6対1になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なり保育士に余裕がなくなり、子どもに応答的、受容的に丁寧な関わりができないこともある。 ・養成校を卒業する学生の学びの質 ・マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。 ・全員が同じ活動に取り組んでいる場合、3人に1人の配置でも可能な場面は多いが、個々の対応ということは、1人ひとり、それぞれ訴えることが違うということ。あそび、授乳、排泄といった場面が一機に発生した場合は、個々の語り掛けながらの対応は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの性格や発育、家庭環境などを読み取り、成長を促すために必要な保育士の知識やスキルを学ぶ研修体制の構築。 ・職員の育成を担えるように条件なしで主任保育士を専任にする制度。 ・乳幼児期の子どもの生活リズムや睡眠の大切さについて、おたよりや連絡帳などで知らせていく。 わらべうたや好きな遊びなどを知らせ、子どもとの関わりを楽しめる様にする。 ・コロナ対策を十分に行い、園庭やウッドデッキなどで他クラスと交流する機会がもてるようにする。 	<p>保育所設置基準の緩和措置の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ii <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化・子育て家庭の現状を踏まえ、待機児童解消も重要な子育て支援ではあるが、子どもの育ちに適切な環境の確保が必要。保育室の面積や自然環境等の違いにより、子どもの経験・発達に大きな差異が生じることを理解し、子どもの育ちを中心に最低基準の検討が必要。
				<p>保育者の専門性の向上の機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> iii <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や保育実践・保護者支援等において、保育者がそれぞれの階層や経験に応じた研修を受講し、専門性を向上させることのできる体制や支援が必要。

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

- ①安心できる関係の下で、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。
- ②体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。
- ③身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容 ② 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。	② ・定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5～6対1になってしまう。	・マスクの使用で保育者の表情が伝わりにくいで、声のトーンや目の表情・動作などをより意識する。 ・コロナ禍で他クラスの保育士と関わる機会が減っている。 ・先生の口元が見えないことが発語、発声、表情からの読み取りが難しい ② ・マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。 ・全員が同じ活動に取り組んでいる場合、3人に1人の配置でも可能な場面は多いが、個々の対応ということは、1人ひとりが、それぞれ訴えることが違うということ。あそび、授乳、排泄といった場面が一機に発生した場合は、個々の語り掛けながらの対応は難しい。	乳児保育／イ ・待機児童解消に向けた、保育所の設置基準の緩和により、ビルの中であったり、自然からかけ離れた場所での保育が展開されている。また、開所時間中ずっと園にいる子どももいる。家庭にいるより園にいる子どもが多いことを、考えてほしい。親のニーズが優先された結果では？ ・人員配置を検討。 ・マスクの着用の必須について、医学的な根拠を踏まえた見直しを図る。 ・コロナ禍であっても必要な行動とその理由や配慮を明確に私たちが示すことで認められないか。 ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。	iv 保育の現場における保育者のマスク着用の効果とデメリットについて ・先行研究があれば国レベルでの取り上げと整理を行っていただき、医学的根拠を含むガイドラインを示していただきたい。 v 乳児期における人とのかかわりの大切さと感染症対策 ・どちらも大切なこの2つは、両立させることが難しい課題ではあるが、異年齢・地域などのかかわりを大切にした場合の保育実践では、当然ながら深い配慮を持ち実践している。一方で、活動しているということだけで社会からの批判非難の対象になりかねないことから、諦めている園も多い。このことから、保育では何を大切にしているか、そのための実践としてどのようなことが必要で、コロナ禍においてどのような配慮を行いながら実践しているか、などについて、正しく社会に理解してもらおうような働きかけを行う必要がある。 vi 保育者のマスク着用について ・コロナの感染が始まり、かなり大掛かりな予防に徹していた初期のころとは考え方や行い方が変化している。マスクについても緩和の傾向が出始めている今、保育の現場においても、こういった場面では着用よりも子どもの育ちを尊重することができる、といったより具体的で、医学的にも根拠ある考え方が示されることが必要と思われる。また、難しい状況にありつつも、どんな工夫と配慮でコロナ禍を乗り越えてきた(乗り越えている)のかということをもっと社会に発信していくべきではないだろうか。

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」					
イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」					
①安心できる関係の下で、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。					
②体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。					
③身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。					
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要	
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等			
内容	③ 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりの希薄さや核家族化から、人と触れ合う機会が少なく、保育士が応答を心がけていても表情が乏しく、反応がないなどと愛着関係を築くことに時間がかかる。 ・定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5～6対1になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他クラスの子とも合同保育をなるべく避けている為、いろいろな人との触れ合いが減っている。 ・コロナ渦で、その経験は希薄になったように感じる ・マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。 ・全員が同じ活動に取り組んでいる場合、3人に1人の配置でも可能な場面は多いが、個々の対応ということは、1人ひとりが、それぞれ訴えることが違うということ。あそび、授乳、排泄といった場面が一機に発生した場合は、個々の語り掛けながらの対応は難しい。 	乳児保育／イ <ul style="list-style-type: none"> ・結果、時間で飲ませたり、時間でおむつを交換したり、1歳を過ぎると、時間で午睡させたりが多くなる。授乳が重なり、ラックに寝かせた状態で、片手に哺乳びん、さらに眠い子がいると足でラックをゆらして寝かしつけを行うなどする。 ・書類にかかる時間を園で決め、職員はその時間内に作業を行う。その時間はノンコンタクトタイムとして確保する。書類作成用の部屋を用意し、ながら事務はさせない。 ・ICT化により業務効率化を進める一方で、保護者対応の時間の確保。 	保育所保育指針の見直し vii <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化（核家族化や保護者の地域とのつながりの希薄化等による影響）を踏まえた子育て家庭支援が必要となっており、子どもの視点だけではなくこのことも踏まえた記載が必要。
	④ 保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5～6対1になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士がマスクをしているため、口もとが見えず、発声の仕方等の見本を見ることが難しく、言葉の発達への影響が心配される。 ・先生のマスクで口元が見えないことが発語になんらかの影響があるような… ・マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。 ・職員配置数には、「書類作成の時間、清掃などノンコンタクトタイム」は含まれていない。なので保育をしながら、取り組むところも多いはず。肯定的な対応が難しくなる。結果、「待って」「泣かないで」「静かに」「どうして？」など、子どもの発達にそぐわない言動が出てしまう。 		

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」				
イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」				
①安心できる関係の下で、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。 ②体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。 ③身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。				
保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとりまとめ」に向けて) ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容	⑤温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。	⑤ ・定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5～6対1になってしまう。	⑤ ・コロナ禍で、家庭で過ごす時間が増えたが子どもとの関わり方が分からず、テレビやYouTubeなどをみせていたり、保護者もスマホを見ていたりすることが多い。 ・マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。	内容の取扱い
内容の取扱い	①保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。	① ・示されたように保育を行おうとして入るが、上記のように、一人に一人にといった個別の対応が難しい場面を多く見かける。	① ・マスク着用の保育により、より一層のマスクの下での豊かな表情と温かい声掛けを心掛けた。 ・マスク着用等によって、表情が分かりにくく、子どもの欲求が満たされているのか、また、保育士等とのやりとりが楽しめているのか。 ・保護者に保育室に入ってもらえない時期が長く、一人ひとりの育ち、家庭環境に向き合いにくい状況があった。 ・スキンシップを禁止してはいないが、以前のように積極的にやることをはばかれている。	
	②身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育士等との関わり合いを大切に、ゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにすること。	② ・核家族が進み、保護者の勤務時間も長くなっていることから、ゆっくりと子どもと関わる時間が少なくなっている。関わりや言葉のやりとりが心配な家庭もある。 ・このねらいと内容の大切さを理解しているが、上記のように、応答的にかかわりができない場面も多々ある。	② ・コロナ禍により家庭で過ごす時間が増えたことにより、ますますメディアに触れる機会が多くなり、発語が遅くなったり、目を合わせてのコミュニケーションが取りづらかったりする。 ・言葉の育ち、口腔機能の育ちには先生のマスクはマイナスの影響を感じる ・マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。	

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

ウ、精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

- ① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
- ③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要				
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等						
内容	① 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。	・未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。	①	・コロナ感染防止のため、個人用の玩具を準備し、舐めたり、触ったりして遊べる環境や玩具を見直した。	乳児保育／ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのかかわりを離れ、衛生管理等の作業に集中できる時間の確保が必要 ・衛生管理のために保育士の仕事量が増えている。保育体制強化事業（拡充）保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。 ・子どもが安全に探索活動ができるような場所の確保のための補助金。 ・保育士が保育環境や玩具を整えるための時間の確保をすること働き方改革を踏まえて予備保育士を年間で雇えるようにする。 ・保育園での遊びの様子をおたよりや連絡帳などで知らせ、それぞれの発達に合わせた玩具を紹介している。月齢と共に予測される行動を知らせ危険が回避できるよう家庭で取り組んでもらう。 ・保育園での子どもたちの日頃のを伝え、保護者と共に成長を喜び合い、子どもへの愛着を深めて関わりを楽しめる様にする。マスク越しでも軟らかい言葉掛けやわらべうたを通して信頼関係が築けるようにする。 	<p>人員配置の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども 特に乳児は身の回りにある物に触れたり 口に入れたりすることで感触を確かめ、興味関心を高めながら感性が育っていく。そのため、安心して触れられるようこまめな消毒作業が不可欠で、感染症対策の観点からも保育士の業務が増加している。保育士が子どもとの関わりに集中できるよう、その他の業務を担える職員配置ができる体制や仕組みの充実の検討が必要。 	
	② 生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の動きを豊かにする。	・未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。	②	・消毒できる素材の玩具・手作り玩具を見直し、細目に消毒をして感染の予防に努める。				<p>子育て支援政策の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ii <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労支援のため、待機児童解消も子育て支援として必要ではあるが、子どもの育ちにおいて、保護者との愛着関係形成の重要性についての理解を広く知らせ、育休取得制度の普及や子育て家庭の就労体制等の取り組みが必要。
	③ 保育士等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。	・未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。	③	・適切な距離と声の大きさに配慮した読み聞かせが必要。				
	④ 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。	・未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。	④	・布製品はこまめに洗濯をしている。				
	⑤ 保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。	・未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用のまま、温かなやり取りを心掛けた。 ・緊急事態宣言時、家庭で触れ合い遊びや歌遊びなどが楽しめるよう、遊び方を紹介する動画配信や絵本の貸し出しを行った。 				

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容～

保育所保育指針における「ねらい」

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

- ① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
- ③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

保育所保育指針における「内容」および「内容の取扱い」	保育所保育指針と照らした現状の整理		A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)	今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点（「中間のとりまとめ」に向けて） ⇒国への伝え方等については、委員会にて検討が必要
	A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等		
内容の取扱い ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。	・子どもの発達や興味に即したあそびの提供を心掛けているが、家庭で幼い頃からメディアやタブレットに触れがちな家庭が増えていることが心配される。 ① ・活動範囲の狭さから、遊びがマンネリ化してしまう。長時間保育の子どもの増加から、点検する時間の余裕がなくなっている。	・生活用具、玩具、絵本等の衛生管理を更に丁寧に行った。 子どもの手が触れる場所の衛生管理に努めた。 ① ・密を避け、人数や時間をずらして空間を確保。そのため、人員も要する。 ・消毒の大変さから、保育士の疲弊もみられる。とはいえ、多くの玩具に触れさせたい思いを持っている。ただ、各年齢のねらいについて分けて考えることの難しさと活動の保証をするための環境づくりの難しさを感じている。	乳児保育／ウ ・待機児童解消に向けた、保育所の設置基準の緩和により、ビルの中であったり、自然からかけ離れた場所での保育が展開されている。また、開所時間中ずっと園にいる子どももいる。家庭にいるより園にいる子どもが多いことを、考えてほしい。親のニーズの優先された結果では？ ・人員配置を検討。 ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。	
② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。	② ・保護者がスマートフォンを見ることが多く、子どもたちの発達に気が付けないことが多い。授乳中や食事中もテレビが付いていたり、スマートフォンを触っていたりすることがあり、表現しても受け止めてもらえず愛着関係が築きにくい。表情があまりなかったり、目があわなかったりする子どもが増えている。 ・表現活動においては特に、たった1年の違いでも必要な玩具や環境が違っており、適切に整えることの難しさがある。	② ・目の表情や大きな仕草、声の抑揚などで感情を伝える工夫をする。 ・消毒の大変さから、保育士の疲弊もみられる。とはいえ、多くの玩具に触れさせたい思いを持っている。ただ、各年齢のねらいについて分けて考えることの難しさと活動の保証をするための環境づくりの難しさを感じている。	・子育て中の親の労働時間について、行政・学識を含めた保育の現場で検討されるべき。 ・乳児の玩具、特に木製はかなり高価であり、これに対する補助金があればいいが。	